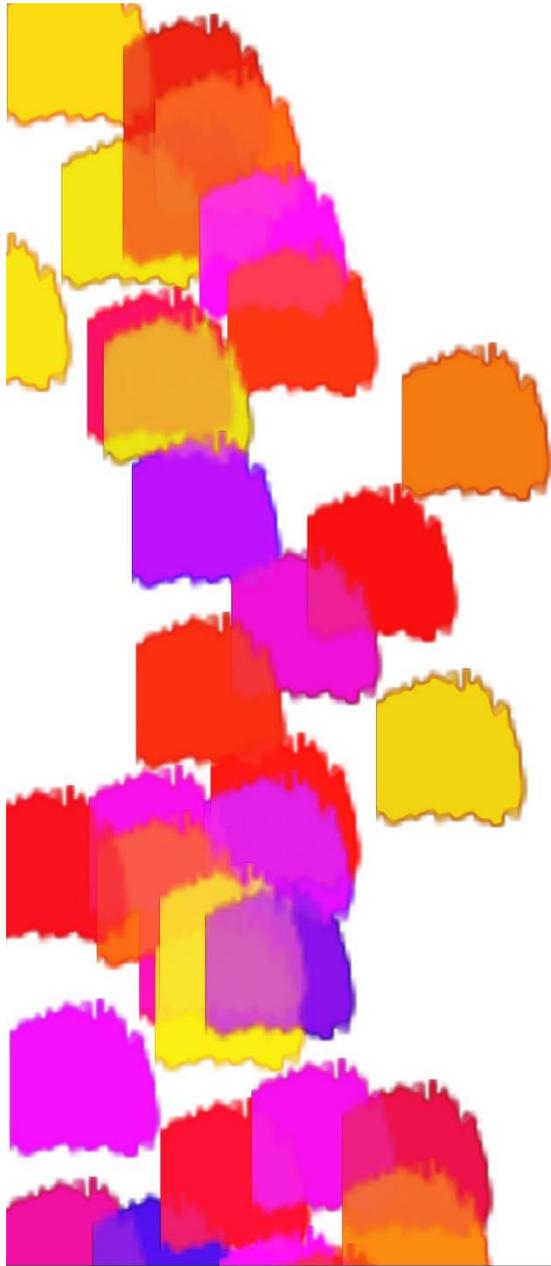


「考」

—働く前に必要なこと—



そうだ、ソモソモ「働く」
ことって？



中学生・高校生に
読んでほしい一冊。

目次 Contents

「考」—働く前に必要なこと—

プロローグ……2 ページ

1

いまの私たちとどう関わりがあるの？ <「教育」から考える>……10 ページ

働かないという考えに至るまで……11 ページ

「キャリア教育」から考える……20 ページ

コラム

「無人島に生きる」 —さらばストレス生活?—……28 ページ

2

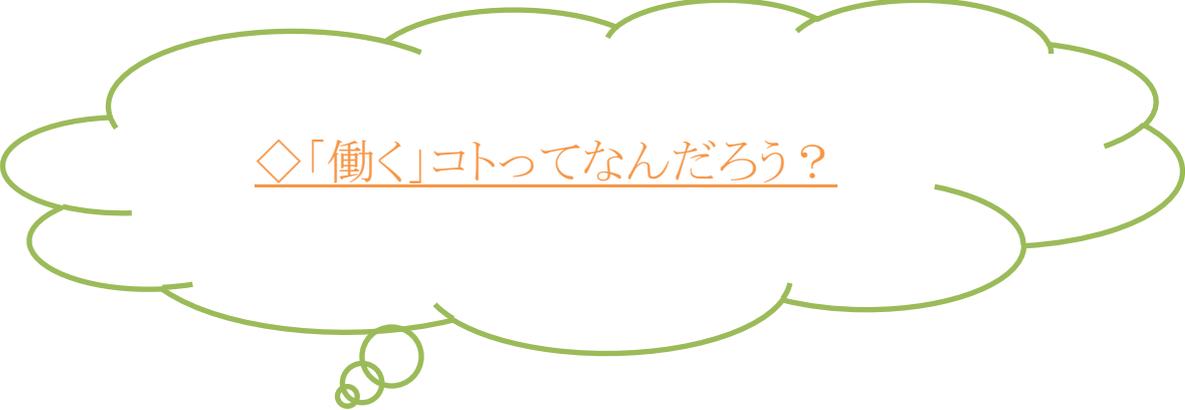
必要あるの？ <「社会」から考える>……33 ページ

そもそも働かってなんだろう？……34 ページ

男性はなぜ働く？ 女性はなぜ働く？……40 ページ

エピローグ……47 ページ

プロローグ



◇「働く」コトってなんだろう？

朝早くスーツを着て会社に行き帰りする人々、商店街の八百屋や魚屋、工事現場のおじさんに看護師や消防士、警察官。服屋のお姉さんや美容師。世の中を動かし支えているのは、そうしてさまざまなかたちで「働いて」「仕事をしている」世代です。

私たちは学生生活を送るなかで、具体的なイメージはなくともおとなになればきっと「働く」ことになるのだらうと感じているのではないかと思います。

「働いてお金を稼がないと生きる糧が得られない」、「働かないとなにもできない」、「世の中みんなが働いているのに自分だけ働かないわけにはいかない」

……なるほど、確かにいつかは働くしかなさそうです。

では、「働く」とは一体どういうコトなのでしょう。私達とどう関わってくるのでしょうか。

この本を通じて私たちと一緒に考えてみてほしいのです。

◆ソモソモ、「社会人」になるって？

「社会人」と言われる人はたいてい働いていますよね。

テレビや新聞などで新「社会人」や新入社員、就職率といったワードを聞いたことがあると思います。そしていずれは自分も「社会人」になるのだろうと私たちを含めなんとなくみんな感じているのではないのでしょうか。

ここで、すこし考えてみましょう。そういえば、「社会人」って一体どういう人のことを言っているのか。広辞苑を開いてみます。

しゃかい - じん【社会人】

- 1、社会の一員としての個人。
- 2、実社会で活動する人。

しゃ - かい【社会】

- 1、人間が集まって共同生活を営む際に、人々の関係の総体が一つの輪郭をもって現れる場合の、その集団。諸集団の総和から成る包括的複合体をもいう。自然的に発生したものと、利害・目的などに基づいて人為的に作られたものがある。家族・村落・ギルド・教会・会社・政党・階級・国家などが主要な形態。「一に貢献する」
- 2、同類の仲間。「文筆家の一の常識」
- 3、世の中。世間。家庭や学校に対して利害関心によって結びつく社会をいう。「一に出る」
- 4、社会科の略。

どちらも広辞苑第六版より引用

つまり、「社会人」というのは、社会に参加し、その中で自分の役割を担う人のことを言います。

そしてその社会を支えるのは主に「労働力」やそれに伴う「お金」です。社会に参加するということは会社や団体などに属し、「労働力」を使ってサービスなど、何かを「提供」「生産」する立場にあるということだと考えられるのです。

⇒その人を「社会人」とするかどうかは、生産者として「働く」ことが関わっていることがわかります。

■人々が生活していく上で形成される共同体のことを「社会」といえます。本書では自分の労働力を使って働きお金を稼ぐしくみをもつ「資本主義社会」の意味が濃いです



◆私たちは「社会人」になるための準備として「キャリア教育」というものを受けている

「トライやる・ウィーク」という活動を知っているでしょうか。もうやった、これから受ける。ある

いは通う学校によっては実施されていない場合もあるかもしれませんが、端的に言うとそれぞれ学校の所属する都道府県内にある受け入れ先企業や店舗に、中学生たちが職場体験として訪問し、見学や実際の業務を通じて仕事に対する興味関心を養い、働く意欲を育てようといった目的の学校の教育活動です。地元の電器屋や書店、スーパー、美容室に図書館や博物館など、あちこちで活動する中学の先輩や後輩を見たことがある人もいないでしょうか。

また、学校の授業内で自分の興味のある職業について調べて新聞やレポートを作成したり、発表を行ったり。高校生の人なら職業の適性検査アンケートなどを受けた、という人もいるかもしれません。こういった「職業」に関わること、「働く」ことに関わることを教わったり活動をしたりさせられたり、というのが世間一般的にいう「キャリア教育」というものにあたります。

参考までにキャリア教育ということばを調べてみましょう。

キャリア教育＝若年雇用問題、フリーター・ニート問題の深刻化のもとで、職業教育に関心が寄せられ、1999年の中教審答申で「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」が提言された。2003年6月、省庁連携による「若者自立・挑戦プラン」がまとめられ、04年には調査研究協力者会議の答申が出された。文部科学省では「若者の自立・挑戦のためのアクションプラン」により、中学校を中心に5日間以上の職場体験等のキャリア教育を推進し、eラーニングなどのキャリア教育の機会を提供し、就労に必要な能力・態度の育成を目指している。都立単位制高校にデュアルシステム科（在学中、インターンシップ〈企業内研修〉という形で実習を行うカリキュラムがある）を新設する動き、先端的な技術や伝統技能を習得することを重視するスーパー専門高校36校の指定、ニートの起業などを勧める「若者自立塾」の助成などの動きがある。

（現代用語の基礎知識 2011年版より引用）

要するに、就職率の低い若者たち世代に「働く」力を身につけてもらうために定められた「テコ入れ」教育カリキュラム、ということになります。

ここでもうひとつ考えてみます。キャリア教育ということばの「キャリア」とはソモソモ一体どういう意味なのでしょう。

キャリア=これまでの、そしてこれからの人生の履歴（この中には人生の節目や転機、変転の可能性が含まれている）

仕事上の経歴。経験。国家公務員で上級試験に合格した者。

(パーソナル現代国語辞典より引用)

キャリア【career】

(職業・生涯の) 経歴。「一を積む」

専門的技能を要する職業についていること。

国家公務員試験種（上級甲）合格者で、本庁に採用されている者の俗称。「一組」

(広辞苑第六版より引用)

「キャリア」とはその人のこれまでの歴史とこれから、と言ってもいいかもしれません。べつに「働く」ことばかりの意味とは限られていないのです。しかし、バリバリ働く女性をキャリアウーマンだとか、超エリート官僚や出世組をキャリア組だとか言うことばはわりとよく耳にしますよね。

「キャリア」ということばが働くこと、職業と関連付けて使われるのはなぜなのでしょうか。

それは、たいていの人が学校を卒業してからの人生の何割か、または大半を「働く」（職業生活）ことに費やすからです。そのために人生の「キャリア」には「働く」ことが深く関わっているからです。(四年制大学卒業から新卒採用と考えると 22 歳から定年 65 歳まで)

ルで勤めたとしたらざっと 40 年はある!) つまり、何らかのかたちで「働く」ことはほとんどの人のキャリアに関わってくる不可欠なことなのです。

「働く」ことがどう私たちに関わってきているか、いかに「働く」コトについてよく知らないのかが少しでも伝わったでしょうか。

私たち自身、この本の制作を通じて「働く」ことについて学ぶこと、考えることはたくさんありました。社会に出る、進路を考える。そんなときに少しでも役に立てるようになればと思います。

次ページより、本書各章のテーマについてあらかじめ述べておきます。

◇ソモソモ、「働く」コトってさ

1、いまの私たちとどう関わりがあるの？ <「教育」から考える>

■ 「働かない理由」から考える。<「ニート」になる可能性とゆとり教育>

■ 「キャリア教育」から考える。<「キャリア教育」の意味がよくわかりません>

ここでは「働く」ことに関わる教育について掘り下げて考えます。どうして、若い世代で働かない人が出てきてしまうのか。「社会人」になるための準備のはずの「キャリア教育」が何だかよくわからない上に、実際役立つのかどうか全く分からない……そんなことを調べ、まとめてみました。

2、必要あるの？ <「社会」から考える>

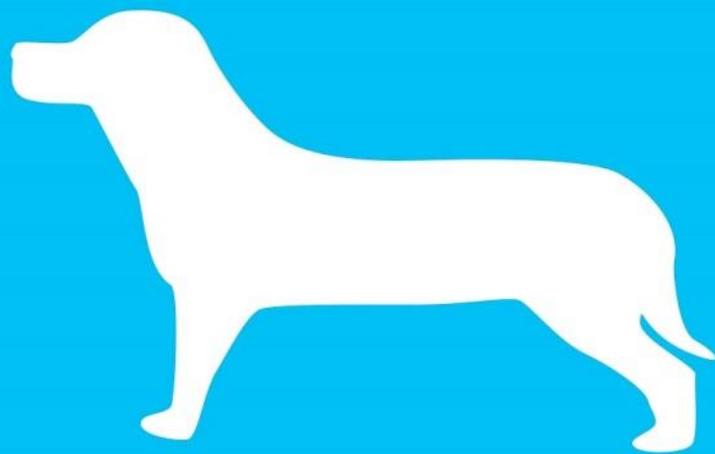
■ どうして働かないといけないの？ <その意味と魅力、について考える>

■ 女性も働かなくてはいけない時代？ <仕事と家庭、を考える>

こちらでは社会情勢に合わせた内容を考えます。女性の社会進出がうたわれる昨今において、女性が働く、ということはどうなのか。そして多くの人が避けては通れない「働く」ということ、その意味を考え、働くことの良さを考えていきたいと思います。

最後に、エピローグとして私たちなりの考え、「働く」ことに向き合う姿勢を発信したいと
思います。この本をきっかけに、結論は出ずとも考えるきっかけになってくれればなによ
りです。

1、
いまの私たちと
どう関わりがあるの？
＜教育から考える＞



◇働かないという考えに至るまで

◆ 働かない原因はどこに？

「アリとキリギリス」の話を知っているでしょうか？ 古代の寓話を集めた『イソップ童話』に収録されている^{くわわ}寓話の1つです。

知らない人のためにざっくり説明しましょう。

夏の間、アリたちは冬に備えて、食料を蓄えるために働き続け、キリギリスはバイオリンを弾き、歌いながら過ごしていました。いざ、冬が来ると、食料もなくなり、キリギリスは飢えることとなります。そこで、キリギリスは食料を^{びちく}備蓄していたアリを頼ります。しかし、アリは、食料を渡すのを拒みます。そして、拒まれたキリギリスは、冬の寒さの中飢え死にしてしまうのです。

これは、「将来のことを考えながら動きなさい」という警告を含んだ話です。この話から、古代より、働かない者は痛い目を見る、ということが当たり前になっていたことがわかります。

しかし、現代になっても「キリギリス」のように働かない人が存在しています。いわゆる「ニート」です。

国ごとにニートの定義は違っていて、日本におけるニートの定義は、15～34歳の無職かつ家事も通学もしない者とされています（総務省のHPより）。そのニートは、平成21年

(2009年)の時点で、約63万人いるとのこと。この年の就業者数、6265万人と比べると、かなり小さい数字ではないでしょうか。

このことを知らなくても、誰も自分がニートになるとは考えないでしょう。働きたくないとは思っても、働かないという選択肢を選ぶことはないでしょう。「ギリギリス」のような、悲惨な人生になるとわかっているのですから。

それでも、働かない人は出てきてしまいます。その原因を考えてみましょう。

ニートの最年少は、15歳。つまり、義務教育を修了した年齢です。この年齢がニートの定義に含まれていることを考えると、受けてきた教育に原因があったのではないかと推測できます。特に最近、ゆとり世代は、ストレスに弱い、辞めやすいなどといわれています。これを真に受けるなら、「ゆとり教育」が最もニートを生み出してきたことになります。

しかし、「ゆとり教育」だけが原因ならば、政府はもっと早くに、教育を見直していたでしょう。他にも原因があるはずですが。

厚生労働省の行ったアンケート調査をみると、彼らが働かない主な理由として、「自信がない」、「行動力不足」、「依頼心が強い」といったものが挙げられています。どれも精神的なものといえるでしょう。そして、この精神や人格といった、内面的なものは、学校や家庭環境で培われるもの。つまり、個人を取り巻く環境が原因ではないでしょうか。

これらを原因とするなら、ゆとり世代は、最もニートになる確率が高いということになってしまいます。私自身、ゆとり世代であるため、「ゆとり教育」が原因の一つだと、考えたくはないですが、可能性があるなら仕方ない。一つずつ考察していきましょう。

◆ ゆとり教育がもたらしたかもしれない問題

「ゆとり教育」の一般的な認識は、「授業数の少ない、簡単な授業のもとで行われるゆるい教育」でしょう。実際は、そんな教育ではないことを説明しなきゃいけませんね。

まず、「ゆとり教育」という言葉を誰が作ったのか説明しておきましょう。

実は、「ゆとり教育」は、文部科学省が作った、単なるキャッチフレーズに過ぎません。本当は、「2002年学習指導要領改革」という名前です。長ったらしい名前だったせいか、キャッチフレーズとして使い始めた「ゆとり教育」の方が、世間に浸透してしまいました。そして、そのネーミングの魔力によって、「今度の教育課程はとにかく、ゆとりだけがあるらしい」という、単純で間違った認識を一般人と一部マスコミがもってしまったのです。この認識が、ゆとり世代に「貧弱」というイメージをもたらしているといえます。

これを知ったうえで本題に入りましょう。「ゆとり教育」とは、なんなのか。単に「授業量を減らし、その分ゆとりをもって人間性を養おう」などというものではありません。「総合」の時間の導入で知識の幅を広げ、授業数を減らしてできた時間を用いて、教師・保護者・地域・生徒が、より深くふれあい、社会で生きる大人たちから、様々なことを学ぶことで、「生きる力」を養うことを目的とした教育なのです。

「総合」の時間は、あらゆる知識に触れる時間を与えるため。授業数が減らされたのは、落ちこぼれをなくし、自分で考える時間を与えるため。学校が週五日になったのは、生徒が保護者と過ごす時間、地域と関わる機会、教師が知識を蓄え、授業に活かす時間を確保するためなのです。そして、機会があれば、学校を解放し、生徒と保護者と地域の人々と

教師が関わることができます。これらがうまく行われれば、家庭・地域の教育力の低下、学力^{がくりょく}偏差値重視^{へんさち}の傾向、それに伴ういじめ問題などの社会問題が、まとめて解決するという寸法だったのです。

なんとも素晴らしい教育ではないでしょうか。しかし、どの社会問題も解決には至っていません。それは、ゆとり教育が学校・保護者・地域が噛み合わない大きな効果を挙げることができない教育だったからです。つまり、効果が表れていないということは、どこか噛み合っていない部分があったということなのです。

噛み合っていないというのが明らかな部分は、学校と保護者でしょう。学校の授業数を減らし、休日の二日を保護者と過ごし、生徒に様々な経験をさせようというのが政府の狙いでした。しかし、授業数を減らしたため、保護者は勉強の心配を今まで以上にするようになり、休みの二日間を子どもの知的好奇心を満たすことより、塾や予備校に通わせ、勉強に多くの時間を費やすようになってしまいました。これでは、伸びる才能も伸びません。本当にやりたいことを見失う原因にもなり得ます。遊ぶ機会も与えられないため、友人関係を築く機会も少なくなってしまう、コミュニケーション能力を伸ばせなくなってしまうます。

さらに、休日に塾や予備校に通わせることは、地域の住民と関わる機会を少なくしてしまいます。これでは、学校と塾と家族という限られた人たちとしか関わる機会がないうえ、関わる年齢層も限られてしまい、関わったことのない年齢層の人との付き合い方がわからなくなる可能性があります。

社会に出たら、幅広い年齢層と付き合うことになるかと予想されます。そんな社会で、接

したことのない年齢層と接した場合、かなりのストレスが発生するでしょう。そして、そのようなストレスがピークに達したときに辞めるという選択肢を選ぶのではないのでしょうか。

◆ 空気を読まないといけない社会

私たちを取り巻く環境について語るうえで、「優しい関係」という言葉は外せません。「優しい関係」とは、『あたりまえを疑え!』という教育学の本に出てくる言葉で、周囲の友達との衝突を嫌い、つねに空気を読み、相手の顔色をうかがいながら接することをいいます。このような関係が築かれるのは、古来より、日本人が空気を読むという性質をもっていることに起因しているのかもしれません。

そして、この関係を続けるうえで重要になってくるのが、「場の雰囲気」です。いわゆる、「空気」ですね。これは、その場にいる人たちで作上げるものです。そのため、多数の雰囲気がその場の雰囲気となります。しかし、個人の感情とシンクロするとは限りませんし、思ったことを軽々しく言えなくなります。人間誰もが抱いている、人に好かれたい、受け入れてもらいたい、認めてもらいたいという心理が生んだものといえます。

集団で過ごすうえで、「優しい関係」から逃れることはできないでしょう。そうになると、気を遣う必要がないのは、個人で過ごすときのみということになるのですが、携帯電話の普及、近年の SNS の発達により、そのような時間が少なくなっているのではないのでしょうか。実際、「LINE 疲れ」という言葉もあります。いつでもどこでも繋がれるとい

うことは、同時にいつになってもどこにいても気を遣わなきゃいけないという状況を作り出してしまっているといえるのです。

例えば、Twitter や Facebook や LINE などの個人を特定しやすいもので悪口を発言したら、その人物との関係は悪くなりますし、学校で話題にされる可能性も高いです。また、いじめの原因になる可能性もあります。悪口が吐き出したいことのすべてというわけではありませんが、不平・不満などストレスを吐き出す相手を選ぶ必要があるうえ、その人に対して言いたいことは避けなければなりません。結果として、本音が言えないという事態に陥ってしまうのです。このようなことに嫌気が差して、集団生活から逃れ、社会に出ることを拒む人も現れるでしょう。ただし、これは「優しい関係」上の話です。

ゆとり教育により、塾にいくばかりで、対人関係が苦手となってしまった子どもたちは、「優しい関係」を築くこともかありません。築き方がわからないのです。彼らにあるのは、保護者との関係のみです。そのため、相手に依存しがちになったり、わがままを押し通そうとしたりと、相手と対等な関係を求める「優しい関係」とは真逆の、一方的な関係を求めてしまいます。集団生活に嫌気が差す以前に、集団生活に溶け込めないのです。

では、集団生活に溶け込めなかったらどうなるでしょう。おそらく、保護者である親に依存することになります。親にまで見放されたくないため、従順になります。ここには、親に認めてもらいたいという心理も働いていると考えられます。親も、言うことを素直に聞いてくれる子どもを「いい子」だとし、子どもを操作します。子どもは、親の言うことに全幅の信頼を置いているため、ほぼ思考停止しています。将来やりたいことや勉強の意味など考えていません。そして、親の目的である、名門大に入学、もしくは一流会社への

入社が果たされたときに、操作が終わります。親の意思から解放されても、子ども自身の意思はありません。ここにきて、自分がなんのための勉強なのか、なんのために働いているのかわからなくなります。その結果、勉強することや働くことに意味を見いだせない若者が誕生すると考えられます。

では、働く意味を見いだせず、働かないことにした若者は、どうするのでしょうか。もちろん、親に養ってもらうことになるでしょう。そして、若者はこう思うはずです。親が養ってくれるなら、働く必要なんてない。勉強する必要なんてない。人間である以上、衣食住は必要です。それを常に確保するには、働いて、お金を稼ぐ必要があります。しかし、それらを提供してくれる人がいるなら、働く意欲は削がれます。つまり、家庭の経済状況も、働く意思を左右する重要な要素となり得るのです。

さらに、親が養ってくれるため、生活していくための知識を蓄える必要もありません。そのため、自立する力を養うことができないのです。経済的に問題ない家庭は、子どもを手元に引き止めておけるということもあり、その状態をよしとします。これにより、自立する力はさらに低下するという負の連鎖ができてしまうのです。

この「自立する力」がゆとり教育のいう「生きる力」だとするなら、ゆとり教育の行ったことが、裏目に出てしまっているといえるでしょう。

◆ 思考停止している場合じゃない

こうしてみると、ゆとり教育より、社会環境に原因があるように思えます。このことに政府も気付いていたのかはわかりませんが、二十年程前から、やりたいことを見つけ、働く力を身に付けてもらおうとキャリア教育というものを実施しています。これについて詳しく説明すると話が逸れてしまうため、キャリア教育については、後の章にお任せしましょう。

私がここで言いたいのは、自分の立ち位置を理解して、やることになにか意味を見つければ、今の社会で少しは生きやすくなるかもしれないということです。思考を停止しないで、あらゆることについて考えてみてください。考えたことが、将来につながるかもしれません。



参考文献

・『新・学歴社会がはじまる—分断される子どもたち』著者＝尾木直樹 青灯社 出版年月日 2006年11月15日

・『あたりまえを疑え！—臨床教育学入門』著者＝遠藤野ゆかり・大塚類 新曜社 出版年月日 2014年4月15日

・『ゆとり教育は本当に死んだのか？—公立校再生への道』著者＝根本浩 角川 SSC 新書 出版年月日 2007年10月30日

・『知能のタイプ—教育臨床からの見方』著者＝井上敏明 朱鷺書房 出版年月日 1994年12月25日

・『ひきこもる若者たち「ひきこもり」の実態と処方箋』町沢静夫＝著 大和書房 出版年月日 2003年11月5日

・『「空気」の構造 日本人はなぜ決められないのか』池田信夫＝著 白水社 出版年月日 2013年6月5日

◇「キャリア教育」から考える。＜「キャリア教育」の意味がよくわかりません＞

◆キャリア教育ってどんなもの？

キャリア教育にどんなものがあるのか知っていますか？

先のプロローグでキャリア教育が働く力を身につけてもらうための若者へのテコ入れと紹介されていた通り、現在のキャリア教育は働く事にしか焦点を当てていない様にも感じます。

ですが、本来のキャリア教育はもっと広い意味で使われるものなのです。また、アメリカにおけるキャリア教育は転職を考える人用のものであったのです。

まず、働く事に特化したキャリア教育について詳しく書かれている『キャリア教育のウソ』を参考にしながら、説明していきましょう。

この働く事に特化したキャリア教育は大きく下の三つのジャンルに分けられます。

- ① 自己理解系
- ② 職業理解系
- ③ キャリアプラン系



恐らくみなさんにも心当たりがあるでしょうが、①から説明していきます。

①は自分の将来の仕事や進路を考える事を前提にして、自分の能力や適性、志望などを見つめる学習です。例えば、自分史を書いてみたり、やりたい事やなりたいものを考えてみたりすることもこの①に入っているし、場合によっては職業興味検査を受ける事もあるでしょう。

②は職業人の話を聞く事やインタビューをする事、または職業について調べる事をさせる学習です。職場体験(インターンシップ)もこれらの事を理解させる入り口として実施されています。

③は現在の自分となりたい職業をつなぐ将来設計を考える学習です。十年後の自分などを想像させて未来年表を書かせたりすることもこの学習に入っています。進む職業によっては進路についても研究させられるでしょう。

このキャリア教育たちは自分を見つめ、目標を定めて計画的に努力する流れで作られています。これはアメリカで発展してきたキャリアガイダンスの理論に当てはまりますが、後でまた詳しい話をするアメリカと日本は文化や制度が違うし、何よりも大人の転職支援の理論が私たち若者の教育に上手くハマるのかは分からないのではないのでしょうか？

本来のキャリア教育は人生に置いて様々な役割を引き受けながら社会に参加していく事を出来るようになる事であり、それを自分の生き方にするのを手伝うものです。こうして考えると学校の普通の授業でも間接的に、直接的に私たちはキャリア教育をしているのかもしれない。家庭科の授業では家庭で必要になる掃除や洗濯、料理を習います。直接的なつながりが見えなくても理科や社会だってキャリア教育になっているのです。

確かに、働くことも大事だけどそれだけが人生にとって必要かは分かりません。むしろ、働くことだけに偏ってしまう事の方が恐ろしいんじゃないでしょうか？

学校でキャリア教育と言われるものを受けているから大丈夫なんて事はありません。もちろん、働く事に特化したキャリア教育が全て悪い訳でもありません。

でも、自分の生き方を考えた時にもっとよく考えておけばよかったと考える事があるかもしれません。そうなった時にもう、学校は助けてくれないのです。

だから、私たちは冷静に今、自分たちが受けているキャリア教育を見なければならぬのです。自分の生き方を決めるのも、守るのも自分しかいないのだから。

次の項目はどうしてこんなにキャリア教育が働く事に特化しているか、キャリア教育が日本でどうやって生まれてきたか説明します。

◆キャリア教育は日本でどうやって生まれたの？

さて、キャリア教育がどんなものが存在するのか、キャリア教育がなんのためにあるのかという話をしてきましたが、もっと、キャリア教育を知るためにはキャリア教育が日本にどのようにして生まれたのかが重要なのではないのでしょうか？

キャリア教育とはもともと、1970年代の最初にアメリカで始まった教育活動でした。それからすぐに日本にもやってきたのですが、日本では広がる事はありませんでした。

それは、当時の日本では高校への進学率九割を超え、大学や短大への進学も昔と比べて高まっており、就職よりも進学に対して強い興味を多くの人が持っていたからです。

学校の指導も、進路選択は学校選択と言う形が多く、キャリア教育と言うものに目が向けられていませんでした。

また、当時の高度成長期⁽¹⁾は終わっているものの経済は右肩上がりの状況であった日本ではキャリア教育の意義も必要性も感じられなかったために普及しなかったのです。

しかし、バブル崩壊⁽²⁾により今までの培ってきた自信を失ってしまう事になったのです。海外から賞賛されていた日本の今までの在り方は時代遅れと切り捨てられてしまったのです。

このバブル崩壊後の失われた十年ではただ、経済的に揺らいだだけではなく日本の人間への信頼が揺らぐ事件が多くありました。そして、地下鉄サリン事件⁽³⁾などの犯罪や汚職によって今までの教育の在り方を変えなくてはならないと考えた人々が取り入れたのがゆとり教育とキャリア教育だったのです。これにより日本の労働形態も変わりますが、それは次の項で話します。

では、これでキャリア教育がどのようにして日本に広がっていったのか、みなさんは分かりましたか？ でも、この話を聞いて少し疑問に感じてこないでしょうか？

アメリカ生まれのキャリア教育をそのまま日本に当てはめても大丈夫なの？ キャリア教育が日本で生まれた理由は人の質を高める事、つまり、若者をより良くしようという考えがあった。でも、それって本当に教育が悪かったから日本がだめになったの？ と考えた時、違う答えをみなさんは持つのではないのでしょうか？

今、この話を聞いて浮かんだ疑問を大切にしてください。大人や学校が言ったこと全てが正しいとは限らないのです。

- (1)・・・飛躍的に経済規模が継続して拡大した時期
- (2)・・・バブル経済が破綻し、景気が急速に後退すること。バブル経済とは実際の経済状態から大幅にかけ離れて経済が上昇する事である。
- (3)・・・平成7年3月20日に、東京都の地下鉄で、宗教団体のオウム真理教が起こした神経ガスのサリンを使用した同時多発テロ事件で、死者を含む多数の被害者を出した事件である。

◆昔の日本とアメリカの雇用の違い

キャリア教育がアメリカから生まれた事は前項でみなさんも分かったでしょう。そこで、この項は昔の日本とアメリカの雇い方、つまり、雇用形態について話していきます。

まず、昔の日本の特徴的な雇用形態は終身雇用・年功賃金・企業別労働組合からなる雇用労働でした。終身雇用とはその名前の通りに同じ企業に定年まで雇用される事を言います。終身雇用の利点とは社員の技術をじっくりと育てられる事、また、会社への安心感を高める事が出来ることでした。元は明治の終わりから大正にかけての企業の技術を持った労働者の確保が起源にあたります。そして、アメリカには終身雇用制度は存在しません。なぜならば、アメリカには定年制度がないからです。定年を設ける事は年齢による差別であるとして法律的に認めていないのです。

次の年功序列制度は一般的に官公庁、企業などにおいて勤続年数、年齢などに応じて役

職や賃金を上昇させる人事制度・慣習のことを言います。簡単に説明すると長くいる人間の方が偉くて給与が高いという事になるのです。ここもアメリカと比べると大きく違いました。アメリカは成果主義と言って自分が稼いだ利益の一部を給料に貰う、つまり、過程ではなく結果によって測られる事です。自分の実力によってお金を稼ぐとも言えます。

最後に、労働別労働組合は会社内で常勤の社員が組合を作る事を言います。ここで、「日本と同じようにアメリカにだって組合はあるだろう」と思う人もいるかもしれませんが、この労働別労働組合は大きく違っているのです。他の国にある組合は職業別と言うもっと大きな範囲の組合なのです。労働組合とは企業に対する労働者の待遇を良くさせる為に存在します。ですが、日本の労働組合の系統では非正規雇用人間は入る事が出来なくなっているのです。また、会社と言うものに縛られないアメリカの組合では外に人脈が出来やすく転職がしやすいという一面も存在します。

さて、ここまで、色々な事を比較してきましたが、アメリカと日本が大きく違う事は分かってもらえましたでしょうか？

ここでは単純に雇用制度だけを比較しましたが、文化を見ても大きく違います。日本では年上を敬うが、実は職場上ではアメリカ人の方が間違っていると感ずいても上司の決定に従う事などにも表れています。そう、アメリカはエリートに支配される形態が存在する社会ですが、日本は集団主義的で均一な形態が尊ばれる社会なのです。宗教的にも儒教に深い影響を受けた日本とキリスト教の影響を受けるアメリカとは考え方や感じ方に差異が出る事も仕方がない事なのです。

ここで言いたい事はどちらの方が間違っているとか、正しいと言う話ではありません。

重要な事は日本とアメリカが違っている事なのです。その全く違っている国からそのまま持ってきてしまったキャリア教育が正しいのかと考えてみてください。そして、正しくないと感じてても全てを否定しないでください。確かに不具合は存在します。ですが、それで考える事を終わらせる事が一番恐ろしい事なのです。

大切な事は過去を非難する事ではなく未来をどうするかではないでしょうか？

◆まとめ

さて、今まで散々と話してきた内容はきっとみなさんの中でキャリア教育への強い疑いへと変わっているかもしれません。ですが、全てが間違っているかと思った時にそうではないのではとも考えられるのです。

中学生で体験した仕事体験で仕事と言うものを触って経験や職業調べなどが全て無駄だった訳ではなく、みなさんの中で何かしらの想いや価値観を遺しているのではないのでしょうか？ 何度も言う様に全てが間違いではありません。ですが、しっかりこない事も事実です。その時に自分がどうするのかと言う事が一番重要だと忘れないでください。これはキャリア教育に限った話ではなく、色んな事に当てはまる事です。

これから、みなさんの前には様々な選択肢が現れる事でしょう。その時に選ぶのは自分である事を忘れないでください。選んだ道を歩くのは他のだれかではなく自分自身である事を忘れないでください。良く考えてあなたが納得できる様に常にアンテナを張って過ごしてみてください。

最後に、もし、キャリア教育についてもっと知りたいと思う方には本章で触れた児美川孝一郎のちくまプリマー新書の『キャリア教育のウソ』をお勧めします。

参考文献

- ・『企業の錯誤/教育の迷走：人材育成の「失われた 10 年」』 著者＝青島矢一 東信堂
出版年 2008 年 8 月 30 日
- ・『「働く」は、これから：成熟社会の労働を考える』 著者＝猪木武徳；杉村芳美 [ほか執筆] 岩波書店 出版年 2014 年 2 月 25 日
- ・『終身雇用と年功賃金の転換』 著者＝小越洋之助 ミネルヴァ書房 出版年 2006 年 1 月 25 日
- ・『日本人とアメリカ人』 著者＝NHK 放送世論調査所 日本放送出版協会 出版年 1982 年 11 月 20 日
- ・『日本的労働制度の歴史と戦略：江戸時代の奉公人制度から現代までの日本的雇用慣行』 著者＝丹野勲 泉文堂 出版年 2012 年 6 月 1 日
- ・『キャリア教育のウソ』 著者＝児美川孝一郎 筑摩書房 出版年 2013 年 6 月 10 日



コラム

無人島に生きる

—さらばストレス生活?—

現代の社会は、「ストレス社会」と称されるほどストレスに満ちています。そんな社会から一刻も早く抜け出して、自由にのんびり暮らしたいと考えているあなたに贈るこのコーナー。



無人島生活 初心者編

まず、島を買しましょう。ここでは、沖鍋島という島を例にとります。この島は、場所も本島に近く、値段も 2000 万円とお手頃価格の初心者向けの島といえます。



←地図上はこの辺にあります。一見、陸から離れて見えますが、実際は、泳いで渡ることができるほど近いです。

沖鍋島は、こんな感じの島です。(※画像はイメージです。) →



次に、住宅を建てましょう。島の所在位置が山口県ということで、山口県の平均的な住宅の大きさに合わせて、約 30 坪の住宅を建てます。もちろん、自分で建てるわけではありません。初心者の方はプロに任せましょう。

プロに任せるといっても、委託する会社によって費用は違います。そのため、ここでは具体的な数字は出せません。この場で、どうしても具体的な数字を知りたいという方には、トレーラーハウスの値段を提示しましょう。トレーラーハウスとは、簡単に説明すると、車で移動可能な家のことです。島に設置する時点で、車輪はいらないかと思いますが、組み立て済みという点はかなり大きなメリットです。すぐに無人島生活を始めることができます。

値段は、キッチン・トイレ・お風呂などの設備がないものは、200 万円からとなっており、300 万円以上から設備がついてくるようです。設置に関しては、運搬・搬入もしてくれる会社もあるため、問題ないと思われます。どうやって、運搬・搬入を行うかは、ご想像にお任せします。

これで、住宅はどうにかになりました。では、生活の問題に移りましょう。無人島生活に慣れていない初心者の方にとって、電気は必要不可欠でしょう。生活のあらゆる部分に関わってくる以上、離れがたいのは仕方ないことです。しかし、暮らすのは海の上ですので、電気を通そうものなら、公共事業レベルの工事になること請け合いです。そこで登場するのが、太陽光パネルです。これも会社によって値段が異なりますが、最も安いと思われる京セラの太陽光パネルを使いましょう。最大 200W 発電できるパネルの値段が 9 万 2 千円です。3 つ以上で 600W の電子レンジが使えるようになります。家の電灯がほしい方、冷

暖房を完備したい贅沢な方は、6 つ以上買うのがベターです。60 万円以上の出費になってしましますが、島と比べたら安いもんです。

電気をどうにかできたなら、次は食事の問題です。島内で食材を調達しようものなら、魚と木の実ときのこ鳥くらいしか取れないでしょう。魚やきのこなら、なんとか調理できそうなものですが、鳥に至ってはある程度の技術が必要となってきます。初心者にとってはハードルが高すぎますが、ストレス社会から抜け出した以上、貯蓄にも限りがあります。時間がかかってでも、捌く技術を身に付けていきましょう。炭水化物が欲しい方は、炭水化物を多く含むどんぐりの実を挽いて、粉にしたものを調理しましょう。田んぼは、相当な水がないとできないので、あきらめてください。海の上の小島に期待してはいけません。

水に関しては、雨水をろ過したものを使用すれば、貯蓄を消費せずに済みますが、初心者にとって、衛生的にも、量的にも不安が残ります。そんな方は、ろ過した水を掃除・洗濯などにまわして、残った貯蓄をすべて水の購入に充てるのも悪くないですね。1 日 20 飲むとして、20 ペットボトル 80 円のものを購入するとしたら、1 年あたり 2 万 9800 円となります。移住する年齢を考えて、水の分の貯蓄もしていきましょう。

水といえば、トイレとお風呂の問題がありましたね。水洗トイレに貴重な水を使うのは、非常にもったいないため、トイレは、海で行いましょう。人の排泄物が分解されるまで、どれだけの期間がかかるのかはわかりません。しかし、数日で消えることは確実にないため、母なる海に還しましょう。お風呂は、ろ過した雨水を沸騰させてから使うといいでしょう。細菌が怖くない方は、沸騰させなくても結構です。もちろん、洗い流した水は、海

に流すこととなります。環境保護団体に責められること請け合いです。

最後の問題は、税金です。国に属する限りは納めましょう。無人島で暮らすにあたり、最低限払うことになるのが、住民税、固定資産税、特別土地保有税です。住民税と固定資産税はなんとなく想像がつくかもしれませんが、特別土地保有税とはなんなのか。土地面積 2 千㎡以上の土地に課される税のことです。沖鍋島は、8 千㎡以上ですので、見事に課税対象です。きちんと払いましょう。

これらのことをきちんと頭に入れたうえで、調理に必要なものや、電化製品、日用品などの細かいものを調達すれば、やっと理想の無人島生活が始まります。少なくとも 3 千万円は資金が必要となりますが、日本のサラリーマンが生涯で稼ぐことができるお金は、2 億円を超えています。そう考えたら、無人島生活も夢ではありません。自由な生活のために、せっせと働きましょう。



参考サイト

- ・『価格.com』 <http://kakaku.com>
- ・『トレーラーハウスの Space Home』 <http://www.space-h.com>
- ・『無人島販売・海外不動産販売/アクアスタイルズ』 <http://www.aqua-styles.com>

2、

必要あるの？

< 「社会」 から考える >



◇ そもそも働くってなんだろう？

◆ どうして働かないといけないの？



ここからは社会に出て働くということについて一緒に考えていきましょう。中・高生の皆や私たち大学生は、まだ社会に出て働いたことがない、と思います。アルバイト経験のある子はいると思

いますが、アルバイトは正社員とは違って自由な面が多く、社会で働くというのとはちょっと違うものです。学生生活が終わると私たちは、人生の大半を仕事に費やすことになり、自由な時間がどんどんなくなっていくと考えられます。身近な例で言えば、お父さんやお母さんが働いている姿でイメージできるのではないかと思います。

でも、どうして働かないといけないの？ と考えたことが一度はあるのではないのでしょうか。生きていくためのお金を稼^{かせ}ぐため、と考えることもできますが、それならばアルバイトをずっと続けて、働きたい時に働けばいいはず。けれども、多くの大人たちは正社員になって頑張っています。このことからもっと労働には生きていくため、という理由だけではなく、何か別の意味があるのではないのでしょうか？

◆ 仕事と趣味の違いは？

さて、働く意味とは何なのかを考える前に、そもそも、どこからが仕事でどこからが仕事ではないのでしょうか？ ここでは私生活でみなさんが一つは持っていると思う趣味と仕事を比較してみたいと思います。

イメージとしては、趣味は好きでしていること、仕事はお金を稼ぐためにすること、というように考える人が多いと思います。これだけでは少し不十分ですね。もう少し考えてみると、

- ・趣味→自分の好きなことを目標とし、自分のために達成する
- ・仕事→好きなことでなくても与えられた内容を目標とし、社会のために生産・消費する

といった感じではないでしょうか。

趣味は自分のために自分が頑張って楽しさや充実感を得るものであり、そこからは社会に対して何かを作り出すものではないと思います。もちろん趣味で作ったものなどを商品として売り、お金に変わることはあると思うのですが、まずその作品を作ることが元々の目的のはずなので、趣味とは生産はするが消費は行わない、一方通行で個人的なものであると言えるのではないかと思います。

それに対して仕事は自分がやりたいこととは違うことをやる必要が必ず出てくるはずです。思っていた仕事とは違うものをする事になっても、途中で投げ出すことはできません。それを放り投げてしまうと、会社に支障が出てしまうからです。働くことには必ず責任が付きまってくるのです。

また、仕事をしていくときには社会との連携が必要になってきます。趣味の場合、個人的に学んだり、作り出したりすることはできますが、仕事の場合はそうはいきません。色々な会社と手を取り合い、お互いに生産したり、消費し合ったりすることで社会は回っていきます。このどちらかだけに偏ってしまうと社会のサイクルが止まってしまい、生活に支障が出てしまいます。

また、社会に関わることとして、仕事以外にはボランティアがわかりやすいと思います。ボランティアは、お金は入ってきません。しかしながら活動続ける人は多くいます。なぜボランティアをするのか？ 理由としては活動によって人を喜ばせることができる、いろいろな人と接する機会になる、活動を行うことで、達成感・充実感を得ることができるといったものが考えられると思います。こうやって理由を挙げてみると、ボランティアは非常に仕事と似ていて、このことから労働することは単純にお金を稼ぐためではないことがわかるのではないのでしょうか。

これらのことから、趣味と仕事の違いとしては社会に深く関わっているかどうか、目標に達成することに責任があるかどうか、生産と消費のサイクルがあるかどうかの三つが挙げられると思います。こうして比較することで、仕事とはどういったものなのかがなんとなく見えてきたのではないのでしょうか。働くことと趣味とは全く別のものです。趣味が仕事になることはなく、仕事は仕事でしかありません。では、仕事の中に私たちは一体何を求めているのでしょうか？

◆ 働くことの意味って？

働く意味として一番大きいのは、「生きていくため」ということだと思います。なにかを買うためにはお金がないといけないし、お金を手に入れるには働くしかありません。ただ、最低限の暮らしをするためだけなら、アルバイトで十分なはず。働くことには他にどんな意味が考えられるでしょうか？

社会に出ていない私が言っても説得力に欠けるとは思いますが、働くことによって手に入る喜びや充実感^{じゅうじつかん}が働く意味につながっているのではないのでしょうか。例えばみなさんがテストでいい点数をとった時、お母さんやお父さんが褒めてくれると、次のテストも頑張ろう！といった気持ちになったことがあるのではないのでしょうか。それは大人になっても同じで、自身が行ってきた仕事やノルマが達成されたとき、充実感や安堵^{あんど}を覚えるのだと思います。また、そうやって仕事をこなしていくことでどんどんスキルが上り、一人前の社会人として認められるようになることは、ただ生きていくだけでは味わうことができない喜びでしょう。アルバイトだと、仕事はたくさんあっても、どうしても単調になってしまい働くことの楽しさを見つけることが難しいですが、正社員なら、どんどん新しい課題が出てきて仕事への興味が尽きず、自分が働くことに充実感・楽しみを覚えることができるのが、正社員として働く意味の一つとしていえるのかもしれない。

ただ、仕事についたとしても、こういった働く意味は自分で見つけられないといけませんし、自分にしか見つけることはできないと思います。社会に出た人たちの中には“仕事が楽しくない”・“なんでこの仕事をしているのかわからない”という人も大勢います。そういっ

た人たちは、働くことの楽しさ・充実感が仕事の中で見つからず、だらだらと言われた仕事を機械的にこなしている人が多いのではないかと思います。君たちもこの教科はわけがわからない、こんなの勉強しても意味がない、と思うことはあるのではないのでしょうか。実際、私自身数学が苦手です、よく思っていました。でもこういった働き方では楽しいと思えるはずがありません。言われたことだけをこなしていくのではなく、自分自身が積極的にいろいろなことを取り入れていくことがより働くことには大切なのだと思います。

経済学者の玄田有史さんが『「わからん」ということで、やめてしまえば、絶対に次のステージに進めません。わからないなりに何とかもがいて、その中で何かをつかんだり、諦めずにやり続ける姿勢を、誰かが「見どころがある」と評価してくれているかもしれない』と言っているように、最初はわからなかったり、つまらなかった仕事が、自分で考えながらやっていけばやりたいことになっていくこともあると思うのです。

もう一つ、働くことの意味としてあげたいのは、社会とつながるため、ということです。私たち人間は、生きてると必ず他人と接することになります。学校や塾、習い事など、みなさんもたくさん人間関係を持っていると思います。成長するにつれて、新しい出会いがどんどん増えていきますよね。ゆとり教育の話が前にあったと思いますが、目的の一つとして学校以外でも地域の人との広い交流を持ってほしいということがあったと思いますが、それは同じ年齢層だけではなく、もっと幅広い年齢層の人と関わり、学校や家だけの小さな社会だけではなく、もっと大きな社会を知って成長してほしいということが含まれています。働くことは、こういった社会との関係をもっとたくさん持つことでもあります。上司や部下、初めて会う取引先の人や消費者…様々な職業の様々な人と出会い、コミ

コミュニケーションをとっていく必要があります。そうすることで、自分の働きが社会に貢献していることが実感できるだけでなく、自分の成長にもつながるので、社会とのつながりは、働く意味の一つであるといえるのではないのでしょうか。

◆ まとめ

どうでしたか？ 働くことの意味について考えてきましたが、あくまでこれは一つの例で、もっともっとたくさんの意味が働くことには隠れていると思います。挙げてきた意味ではしっくりこない人や、すっきりした人など、それぞれ持った感想は違うはずです。でも、それだけで終わるのではなく、大人になって、社会に出て、仕事をして…そうしてから、自分なりにどうして働くのだろう？ ともう一度意味を考えてみてほしいです。



そうして自分の仕事と向き合っていくことが、働くことにおいてとっても大切なことなのだと思います。

参考文献

『14歳からの仕事道』 著者＝玄田有史 理論社 出版年 2005年 1月 20日

『働く意味』 著者＝小倉貴子 幻冬舎新書 出版年 2007年 7月 30日

『いま、働くということ』 著者＝大庭健 ちくま新書 出版年 2008年 5月 10日

◇男性はなぜ働く？ 女性はなぜ働く？

◆はじめに



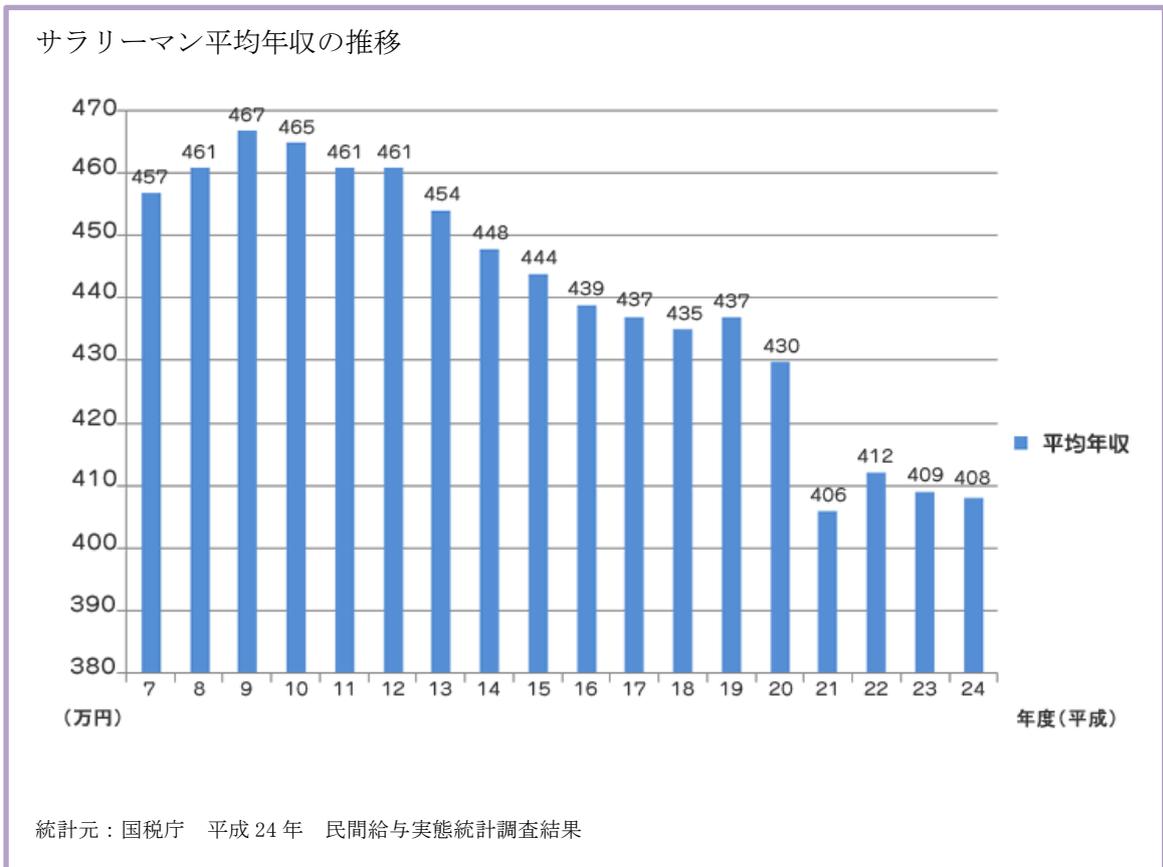
みなさんは将来、働きたいですか？ それはなぜですか？ 働きたい人、働きたくない人、そんなことまだあまり深く考えたことのない人、いろいろな人がいると思います。しかしどのような人であれ、“働かなくてはいけない”とは思っていると思うのです。

では、なぜ働かなくてはいけないのでしょうか。お金を稼ぐため？ やりがいを見つけるため？ 周りの人に認められるため？ 人それぞれ働くことに対する考えやモチベーションは違うと思います。また働くことに対するイメージは男女の間で多少なりとも差が出るのではないのでしょうか。なので、この章では男女間での働くことへのイメージの違い、働く意味の違いを考えていきたいと思います。

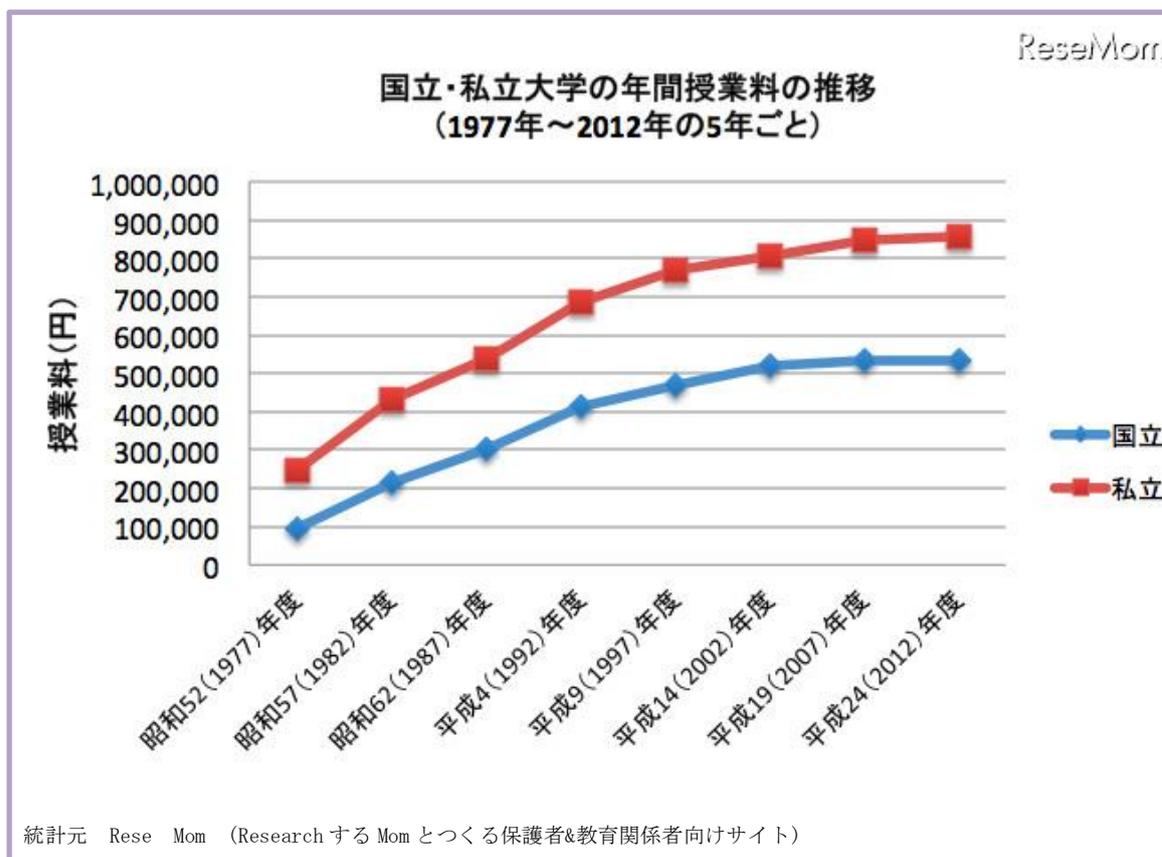
◆時代とともに変化する懐事情

まず、下のグラフを見て下さい。これはサラリーマン平均年収の推移を表したものです。

この表では平成7年から平成24年まで、つまり私たちの世代が誕生してから現在までの、サラリーマンの平均年収を表したものになります。この表を見て、みなさんはどう感じましたか？単純にどんどん減っていったらと感じたと思います。実際に私たちの両親が私たちを育てた時と今現在とを比べると、50万円程サラリーマンの平均年収は下がっています。



さらに次のグラフでは、文部科学省が公表している国立大学と私立大学の授業料等の推移を表しています。平成 24 年から 30 年前の、私たちの親世代が大学生であった昭和 57 年と授業料を比較すると、国立で 216,000 円から 535,800 円へと 2.5 倍、私立は平均で 433,200 円から 859,367 円へと 2.0 倍に増加していることが分かります。また、特に国立大学の授業料の上昇が著しくなっています。



男性の収入は下がっているのに、大学費は上がる一方です。さて、どうすればよいのでしょうか。それはもう女性も働くしかないと思うのです。男性一人の収入では子どもを育て、家族を養うことは難しくなっているのです。

女性も働かなくてはならない理由はこれらのグラフからもなんとなくでも分かったと思います。では男性の方は女性が働くことに対してどのように考えているのでしょうか。

『マイナビニュース』の2013年10月webアンケートによると、最近の20代の独身男性で、妻に働いて欲しいと思っている人が8割もいるというデータが出ています。働いて欲しい理由は、やはり「自分だけの収入では経済的に厳しく生活が維持できるか不安。」とのことでした。実際の既婚男性の妻が、フルタイムやパートで働いている割合は7割程度であり、独身男性の8割にあたる結婚後も妻に働いて欲しいと思っている割合とほぼ一致しています。みなさんは自分が小さい時、お母さんはずっと家にいて専業主婦をしていたという人が多かったと思います。だから自分も。というふうに考える人もいるでしょう。しかし、もうそれではだめな時代なのです。

◆男性と女性の働き方、働く理由の違い

女性も働くことが当たり前になってきていることは分かったと思います。では、次は女性の働き方について考えていきましょう。今は女性も男性と同じように働く時代と言っても、やはり女性全員が全員、男性と同じようには働けないと私は思うのです。なぜなら女性には出産、その後に続く子育てという人生においても大きなライフイベントが待ち構えているからです。そのことを踏まえたうえで、仕事に就き、働いていかなければいけないと思いませんか？ もちろん女性でも男性と変わらず働いて出世したいと総合職に就く人もいます。一方、出世は望まず、就職して数年後訪れるであろう結婚・出産を考え、転勤

がなく家庭と両立しやすい一般職に就く人もいます。中高生のみなさんからしてみれば、こんなことまだまだ先の話だと思うかもしれませんが、早めに知っておいて損なことはないと思います。

ここまで読んで、総合職？ 一般職？ といったように頭の中にハテナが生まれたと思いますが、少しここで総合職と一般職の違いについて説明しておきたいと思います。

総合職

- ・将来的に管理職になることを期待された幹部候補でもあり、仕事内容は多岐にわたる。
- ・全国勤務が一般的であるため、それに伴い転勤がある。
- ・給料は一般職に比べると高く、昇給も早い。

一般職

- ・総合職を補佐する業務であるため、仕事の範囲としてはそこまで広くなく、比較的定型業務が多い。総合職のサポート的な役回りである。
- ・基本的には転勤はない。
- ・給料は総合職に比べると低く、昇給も遅い。

つまり、総合職はさまざまな仕事内容を受け持ち、その仕事一つ一つに対して自ら判断を下さなければなりません。一般職に比べ、責任が重くなりますがその分給料も高いのです。一方、一般職はある程度決められた仕事内容をするため、総合職に比べ責任が軽くなりますがその分給料も低いのです。しかし業種によっては、総合職と一般職を分けていない企

業も多くあります。また地域限定総合職(エリア総合職)といった転勤がない、または指定されたエリア内でのみの転勤といったような総合職と一般職の中間的なコースもあります。

結局は将来自分がどうなっていたいか、それを考えたうえで自分は何を最優先するの
かで働き方が変わってくるのです。しかし、今の時点で将来のことなど想像できないと
いう人は多いと思います。そういう人は、とりあえずは、今の自分がやりたいようにや
ってみればいいと私は思うのです。総合職、一般職は働き方が違い、それは自分で選ぶ
ことができます。そういうことを知っておくのは大事なことです。しかし、どちらかの
コースを選んで進まなくてはならないのでありません。総合職か一般職かということ
基準に仕事を選ぶ必要はないのです。ちなみにこの総合職、一般職というコース分けは女
性であり、男性が一般職に就くことは基本的にはなく、総合職のみになります。ここ
まで読んで、「僕は女性と同じような一般職でいいや」と考えた男性もいるのではないでし
ょうか。しかし、男性は結婚して子どもができると女性とその子どもを数十年間、養って
いかなくてはなりません。そのことを考えると、給料が低く上がりにくい一般職では家庭
が成り立たないのです。家庭が成り立たないということは、つまり結婚できないのです。
男性は女性の立場になって考えてみてください。毎日生活するお金、子どもを育てるお金
を稼ぐことのできない男性と結婚したいですか？ おそらく多くの方がしたくないと答え
るはずですが。フリーターやニートの多くが結婚できないのもこれが理由です。しかし、全
部が全部を男性一人に丸投げしてしまうのではなく、男性が稼いできて足りない分を女性
が賄う。そういった考え方で私はいいと思うのです。



◆最後に

これまで男女間の働く理由の違いを述べてきましたが、これはあくまで私の考え方。これからどう考え、どう動くのかは結局、みなさん次第です。そして、働くにはある程度の諦めと潔さが必要であるということを知っていて欲しいのです。夢だけでは働けない。自分の希望通りにはいかない。自分が本当にしたい仕事を見つけるのは、実際に働いてみないと分からないのです。私もこれから就職活動をし、社会に出ていきます。インターネットや会社説明会でいろいろな情報が入ってはくるものの、実際に働いてみないと本当のところはつかめないのだろうと思います。だからとりあえず私も働いてみます。これを読んだみなさんも少しでも「働かなくては！」と思い、その働くことの意味を考えるきっかけにしてもらえれば光栄です。

参考文献

『妊活バイブル』 著者＝齊藤英和 白河桃子 講談社 出版年 2012年3月20日

『夢、死ね！』 著者＝中川淳一郎 星海社 出版年 2014年7月24日

エピローグ

◇「働く」ことは決してラクじゃない。けれども私たちとは切っても切り離せない

全章を通して「働く」こと、そしてそれに関わる環境や教育について調べてきました。

1章では私たちと「働く」ことについての教育との関わり。そこから働かない理由や就職難と言われる原因を考察しました。ここから、私たちは学校を卒業してからいきなり「働く」ことや人生の分岐点に向き合わされているわけではないということ<最近のほとんどの学生がキャリア教育を受けているということ、ゆとり教育は本来的には自由な個性・感性を養うためにあったということ>、そしてそのキャリア教育・ゆとり教育が決して私たちそのもののためではなく、社会情勢や経済状態に反映された社会問題解決のための手段であったことを知らされました。だからこそ、うまく機能していないこともなんとなく理解できたのではないかと思います。

2章では「働く」ことの根本的な意味、それから昨今の社会的状況から私たちが「働く」ことの必要性を調べました。社会人として働く限りは「やりたいこと」「カッコイイこと」ばかりができるわけではないこと。「仕事」にはやりたいこととは違うことが伴い、社会の中では何か役割を担う必要があることがわかりました。望んだことと違っていたり、つまりいたとしてもあきらめたり、見切りをつけたりしない「(続ける)タフさ」が必要なことも。そして今は男女関係なく誰もが「働く」ことを考え、生き方を選択しなくてはならな

いことも知りました。

これらをふまえて「働く」こと、将来のことを考えれば頭が痛くなりそうですが、過酷だからといって私たちの人生は巻き戻してやり直すことはできません。教育カリキュラムが上手くいってないせいで、家庭環境が良くないせいで自分はこんな風になってしまった、とは残念ながら言えません。誰もが現在の自分を生きるしか道はないのです。そして万人に対するベストアンサーというものもありません。

ですが、どう選択し、どう生きるかは考えることができます。選択しただけでは今よりずっと満ち足りた生活ができるかもしれませんし、逆に困難に立たされることもあるでしょう。思わぬ出会いが自分の人生の転機になるかもしれません。何が起こるかわからないものです。必要なのは様々な場面に立ち向かうときに自分で考える能力、広い視野やオリジナルの感性です。これらがあれば何かの選択が必要なときに自分できちんと納得して進むことができますし、もしかすると新たな道が開けるかもしれません。ソモソモ、こういった能力を育てるためにすべての学校教育（国語や数学、家庭科や体育に至るまで！）はあ

るのです。

覚えておいてください。

いまあなたがやっていることは、あなた自身がムダにしなければ、決して無意味にはなりません。

その上で、できれば前向きに自分の進路、そして「働く」こと「仕事」について自分と照らし合わせて考えて欲しいと思います。

そしてこの本が少しでも参考になっていれば幸いです。

「考」 ―働くために必要なこと―

2014年12月9日

制作・編集 平成26年度近畿大学文芸学部日本文学専攻創作・評論コース栗原ゼミ3年

プロローグ/永田真亜奈

1 いまの私たちとどう関わりがあるの? <「教育」から考える>

- ・働かないという考えに至るまで/塚谷卓央
- ・「キャリア教育」から考える/中嶋美佳

コラム 「無人島に生きる」 ―さらばストレス生活?―/塚谷卓央

2 必要あるの? <「社会」から考える>

- ・そもそも働くってなんだろう?/金澤朋栄
- ・男性はなぜ働く? 女性はなぜ働く?/宮崎真央

エピローグ/永田真亜奈